

※グループ討議の概要について

この資料は、グループ討議の振り返りのために、ファシリテーター及び事務局が議論の概要を整理したものです。暫定的な資料であり個別の意見を示したものではありませんことをご了承ください。修正が必要な点があれば、グループ討議の中で確認して下さい。

沼津高架P I プロジェクト 勉強会<合同>第4回 グループ討議の概要【Aグループ】

今回でステップ4の検討を概ね終え、次回からステップ5「代替案の比較評価」に入ることから、代替素案、代替案、評価項目への追加点等の確認をグループ討議の目的としました。ここで、県、市とも首長が高架化に推進の立場での発言をしていることを受けて、PI や勉強会に参加することが空しくなるといった意見がありました。また、この意見に対し、PI や勉強会は、高架化やまちづくりについて市民の考えを述べる重要な場であるとして必要性を指摘する意見も出されました。

【戦略案（代替素案）及び代替案についての討議結果】

沼津駅周辺地区の総合整備型案 A-2 案、個別対応型 B-7 案については、車両基地跡地の土地区画整理事業において、単に宅地とするだけでなく、コンベンションセンター近辺に人が憩える公園等の配置や沼津駅に近い立地を活かした土地の高度利用の必要性が改めて指摘されました。また、個別対応型の案（B案）については、沼津駅南北の行き来の課題を長引かせるのは望ましくないとの観点から、自由通路のみを早急に整備する提案が改めて出されました。

原地区の戦略案（代替素案）について、まず原地区を新たな拠点地区として位置づける原 B 案と拠点地区として位置づけない原 C 案の違いを確認しました。原地区を新たな拠点地区として位置づける原 A 案や原 B 案は、検討エリアが大きく事業費が掛りすぎることから実現性に懸念が示された一方、原地区のまちづくりの計画案が広く認知されることで実現可能性が高まるという見方も示されました。また、貨物駅予定地への旅客駅の整備が提案されていることと併せて、沼津駅周辺地区にて整備が提案された体育館などの公共施設を原地区に整備するなど、公共施設の配置についての提案も出されました。

また、代替案のうち沼津駅の橋上駅化を含む案が含まれていることについて、PI を通じて市民が提案した成果だとして、PI のプロセスを評価する声がありました。

【評価項目についての討議結果】

街の賑わいについての評価項目に関して、沼津駅周辺地区には高校が多く彼らがいずれ街に戻って来てくれることで将来も街が活性化するとの考えから、街を往来する人の構成のうち高校生の数に着目してはどうかとの提案がありました。また、費用対効果については判りやすく数字で示してほしいとの要望がありました。

【ステップ5、6の進め方についての討議結果】

ステップ5比較評価においては、14の代替案のうち、詳細に比較評価するものと、そうでないものに分け検討を効率化し、議論のポイントを明確にして進める必要性が指摘されました。

また、PI や事業の進め方について、何も決まらない状況が続くことで高架化に関連する土地区画整理事業等が途中段階で止まっているのは街にとって望ましくないことから、意思決定をこれ以上長引かせないことが重要との指摘がありました。

※グループ討議の概要について

この資料は、グループ討議の振り返りのために、ファシリテーター及び事務局が議論の概要を整理したものです。暫定的な資料であり個別の意見を示したものではありませんことをご了承ください。修正が必要な点があれば、グループ討議の中で確認して下さい。

沼津高架PIプロジェクト 勉強会<合同>第4回

グループ討議の概要【Bグループ】

【戦略案（代替素案）及び代替案についての討議結果】

沼津駅周辺地区のA-3案（貨物駅を現位置に存続したまま高架化する案）について、A-3案が可能であれば沼津駅周辺の高架化と原地区の地域づくりとを分けた検討ができることから、現計画からの変更点の明確化と実現可能性の精査が必要であることが指摘されました。その上で、実現可能性があると判断できてから比較評価の対象とすべきとの要望がありました。また、A-1案とA-2案は似かよっているため一つの代替案としてまとめる提案があった一方で、A-1案は現計画であり比較評価のベースとなるものなので残すべきだという提案もありました。

代替案に関しては、今回提示された14案では数が多く比較評価の結果が分かりにくくなる懸念があることから、現計画と比較してメリット、デメリットが分かりやすい4～5案の代替案に限定して比較評価してはどうかという提案がありました。

【評価項目についての討議結果】

評価項目については、事業費に関する項目への関心が高く、事業に着手するまでにかかる年間費用が新たに提案されたほか、将来、人口や経済状況、市の財政も停滞・低迷するという前提に立って評価する必要性や消費税増税による事業費や市民負担の増加への懸念などが出され、沼津市財政の情報開示も改めて要望されました。

また、評価の方法についても議論があり、見る人によって判断が異ならないよう、できるだけ数値などの客観的なデータを提供してほしいとの要望がありました。例えば、人口や民間の投資マインドなどの評価指標については、ビッグデータを分析するなどして数値化できるのではという意見が出ています。

【ステップ5、6の進め方についての討議結果】

ステップ6における「推奨案の選定」を沼津高架PIプロジェクト推進本部が行うことについて、PIで市民が議論しても、推進本部が出す結論は結局は県にとって都合の良いものになるのではという強い懸念が示されましたが、一方で、PI運営事務局は毎回勉強会での議論をまとめ、反映させた資料を作成してくれていると思うので、推奨案にも市民の議論の結果が反映されることを信じたいという声がありました。

偏りのない検討を通じて推奨案が選択されることが重要であり、監査を行う専門家は、客観的中立的な立場であることや、都市計画やまちづくりの視点からのアドバイスができることが望まれています。例えば、最近の沼津市の郊外開発の動きは中心市街地活性化とは真逆の動きであり市の地域整備の整合がとれるのか検証してほしいといった意見が出されました。

今のままだと賛成派と反対派の歩み寄りが無いと感じているので、勉強会やPIを通じて様々な立場の市民が長い時間をかけて話し合ってきたプロセスを形に残してはどうかというPIの成果についての提案もなされました。

※グループ討議の概要について

この資料は、グループ討議の振り返りのために、ファシリテーター及び事務局が議論の概要を整理したものです。暫定的な資料であり個別の意見を示したものではありませんことをご了承ください。修正が必要な点があれば、グループ討議の中で確認して下さい。

沼津高架PIプロジェクト 勉強会<合同>第4回 グループ討議の概要【Cグループ】

【戦略案（代替素案）及び代替案についての討議結果】

戦略案（代替素案）については、幅広く、予断なく案が出され議論が尽くされたとの認識が共通して示されました。そのことで、実現性が著しく低い案も含まれているとのことから、代替案の比較評価にあたっては、案の絞り込みを行う必要性が指摘されました。

沼津駅周辺地区の戦略案（代替素案）に関して、沼A-3案（貨物駅を現位置に存続したまま高架化する案）や沼B-7案（車両基地のみ移設し土地区画整理事業を実施する案）の実現性を検証し、実現性が低いのであれば詳細に検討する代替案としては対象から除いてはどうかとの提案がありました。また、土地区画整理事業の事業費のうち、市の負担分の算出方法については、B案（個別対応型の案）の場合、市の負担の割合は未定であり、A案（総合整備型の案）のように必ずしも50%とはならないことが指摘されました。

原地区の戦略案（代替素案）の原A案（物流機能を活用した全体整備案）に関して、貨物駅の規模を縮小するケースでも、現在取得済みの土地は歯抜け状となっているため新たな土地取得をしなければ難しいという指摘が出されました。また、原B案（種地を活かした先行的機能導入案）と原C案（小規模整備案）の都市計画上の違いについて確認がなされた上で、都市計画上の位置づけやまちづくりの計画範囲については原B案を望むが、事業費が掛りすぎることから現実的には原C案になってしまうのではという懸念が改めて出されました。

代替案の投資の重点の置き方についても議論となり、今後は市の「西の玄関口」として原地区への重点的な整備を要望する意見がある一方、市全体の公共投資のバランスの重要性が指摘されるなど意見交換がなされました。

【評価項目についての討議結果】

沼津駅周辺の賑わいづくりの視点が非常に重要であるが、整備で生み出す空間の面積では賑わいの創出を評価できないのではないか、という疑問が依然として出されています。中心市街地の空洞化に対しては、現在活用されていない空間の再利用が重要な課題として挙げられました。

また、郊外に街が分散していく中で、駅周辺に税金を投入するからには「新しい沼津の顔づくり」が行われることが大切であるとして、その整備により沼津駅が広域の拠点としてどのように生まれ変わるか、整備により周辺に民間投資が生まれる可能性があるか、などの評価項目が重要であることが確認されました。また、高架事業の目的である南北交通問題に限定して、早く、安く効果が出るかという視点に重きを置いて評価すべき、という意見も出されました。

【ステップ5、6の進め方についての討議結果】

ステップ5代替案の比較評価に向けて、詳細に比較検討する代替案の絞り込みを行うことが確認されました。また、数多くある評価項目のすべてが同じ重みではないと考えられることから、評価項目の重み付けを行うという提案がありました。ステップ6推奨案の選定に関しては、PIにおけるこれまでの検討を踏まえて、推奨案を複数案とする提案がありました。

※グループ討議の概要について

この資料は、グループ討議の振り返りのために、ファシリテーター及び事務局が議論の概要を整理したものです。暫定的な資料であり個別の意見を示したものではありませんことをご了承ください。修正が必要な点があれば、グループ討議の中で確認して下さい。

沼津高架P I プロジェクト 勉強会<合同>第4回 グループ討議の概要【Dグループ】

【代替素案・代替案についての討議結果】

戦略案（代替素案）ならびに代替案に対する新たな提案は出されず、これまでの議論が盛り込まれ、議論は尽くしたという声が大勢となりました。

沼津駅周辺地区については、A-2案の建物共同化、公共施設整備、エリアマネジメント等にかかる費用の内訳や、現計画における高架区間の考え方について質問がありました。高架区間のコントロールポイントとなっている南北道路の高さ確保について、現計画であっても交通の円滑化を実現できるのかどうか疑問点として挙げられました。

原地区の戦略案（代替素案）については、浮島のスマート IC 整備を契機に、その波及効果が原地区の活性化につながることや、スマート IC 整備が原地区の物流拠点としてのポテンシャルを高めることが期待され、そのためには原地区とスマート IC をつなぐ道路整備の重要性が改めて指摘されました。

【評価項目についての討議結果】

評価項目については、評価方法や評価の対象などについて中心に議論がありました。

それぞれの評価項目について、できるだけ正確な比較評価となるよう、定性的な評価ではなく、最新データにもとづく定量的なデータでの評価が要望として出されました。

市民や市民生活にとって、どのような効果があるかを重視した比較評価を要望する声が複数あり、費用対効果で比較評価する際、なにを「効果」として定義するのか、効果の出る「期間」をいつまで見るのかによって評価の方法が異なるのではないかという疑問が出されています。また、事業費や時間が掛っても駅北側のURの開発では良いものが出来ていることを例にとり、時間が掛っても費用対効果の期待できる事業をうまく評価してほしいとの指摘がありました。

また、評価項目が数多くある中、評価の優先順位についても議論がありました。主要な評価項目は交通容量と事業費であるとする意見があった一方、ショッピングセンターや駅前の新たな店舗進出、国の財政など周囲の環境変化を勘案しながら評価項目の優先度を検討すべきといった意見も出されています。

【ステップ5、6の進め方についての討議結果】

ステップ5「代替案の比較評価」の進め方について、比較評価をしてから評価項目を再度見直してはどうかとの提案があります。ステップ6「推奨案の選定」については、推奨案を複数案とする提案が出されました。

また、PIにあたっては県や市の事業に対する立場を明確に示してほしいとの要望がありました。